

令和3年度 全国学力調査の結果（5月27日実施・6年生）

- ◎ 本資料では、東部小学校6年生の結果について考察しています。別紙にてお知らせしている、「お子様の個人票（調査結果票）」と、先日配布しました問題用紙及び解答用紙と併せて振り返っていただき、今後の学習に活かすことができるような資料としてお役立てください。

1 【国語】

(1) 結果（全国、佐賀県の正答率との比較）

全国、佐賀県の平均正答率を上回りました。

観点別では、「知識・技能」（言葉の特徴や使い方）は、全国、佐賀県を大幅に上回っていました。しかし、「思考・判断・表現」（特に、「話す・聞く」「書く」）は全国、佐賀県を下回りました。

領域別では、「読むこと」においては、全国、佐賀県を上回りました。しかし、「話す・聞く」、「書くこと」においては全国、佐賀県を下回りました。特に、具体的活動を選択する「話す・聞く」領域の問題については、昨年12月の5年生時の県調査に引き続き正答率が低かったです。

(2) 成果と課題

知識・技能

- ・ 思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使うこと、主語と述語の関係を捉えることができています。しかし、修飾と非修飾との関係を捉えることに課題があります。

話すこと・聞くこと

- ・ 問題文の読み取りで、その資料を用いた目的を理解することができます。しかし、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える、目的や意図に応じ資料を使って話すことに課題があります。

書くこと

- ・ 目的や意図に応じて、理由を明確にしながら自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができます。しかし、自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考えることに課題があります。

読むこと

- ・ 文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握することができます。目的に応じ、文章と図表とを結びつけて必要な情報を見つけること。目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することのように、読んだことをまとめて書くことに多少の課題があります。

(3) 2学期以降の取組

- ・ 目的や意図を明確に、且つ資料を使って話ができるようにしていきます。また、説明文の教材において、事実と感想、意見を区別させたり、複数の資料を活用し、自分の考えがより伝わるように表現を工夫させたりしていきます。
- ・ 従来の課題である、「情報量の多い問題に取り組む」「複数の条件に合わせて書く」、そして「主語・述語の関係を意識して書く」ことに気をつけさせます。また、文章を部分的に捉えるのではなく、文章全体の構成や展開を考えさせて、話したり書いたりさせます。
- ・ 朝のスキルタイム等での「毎日子ども新聞」の活用、週末課題（4～6学年）に継続して取り組みます。

2 【算数】

(1) 結果（全国、佐賀県の正答率との比較）

全国、佐賀県の平均正答率をわずかに下回りました。学年の分布を見てみますと、正規分布（平均辺りを頂点にした山形の波形）ではありませんでした。今後も引き続き、個人の習熟度に応じた学習をしていきます。

観点別では、「知識・技能」がわずかに全国、佐賀県を下回り、「思考・判断・表現」は全国、佐賀県を下回りました。

領域別では、「図形」、「測定」、「変化と関係」においては全国、佐賀県を上回りました。しかし、「数と計算」、「データの活用」においては全国、佐賀県を下回りました。特に「データの活用」の正答率が低かったです。

(2) 成果と課題

数と計算

- ・ 二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できています。しかし、除法の結果について日常生活の場面に即して判断したり、商が1より小さくなる除法の計算を商の意味を考えたりしながらすることに課題があります。

図形

- ・ 直角三角形の面積の求め方の理解、複数の図形を組み合わせた面積の比較（二等辺三角形、平行四辺形）に課題があります。特に、直角三角形の底辺と高さの理解が確実ではなかったことが分かりました。

測定・変化と関係

- ・ 条件に合う時刻を求めることができます。また、道のりと速さと時間の関係、それらを求める式を表したりと答えの意味を理解したりすることができます。

データの活用

- ・ 棒グラフから数量や項目間の関係を読み取る、データを二次元の表に分類整理する、帯グラフのデータを複数比較し示された特徴をもった項目とその割合を記述する、集団の特徴を捉えるためにどのようなデータを集めるべきかを判断することに課題があります。

(3) 2学期以降の取組

- ・ 授業の中で自分や友達の考え方をまとめ、整理する時間を大切にします。それを、論理的に説明（図や絵、式や言葉を用いて）したり、判断や考えの正しさを説明したりするような取組をよりしていきます。
- ・ 授業の始めや終わりに、基礎的・基本的な問題や適用問題に取り組み、計算の仕方を理解し、確実に計算できるようにします。また、家庭学習でも個人や学年の課題を押さえた内容に、適宜取り組ませます（調査結果のみでなく、1学期の個人の課題も踏まえて）。